

資料 3

令和4年度 旭川市農業センター試験課題等一覧

＜農業センターほ場試験＞

No.	課題名	年次	作型			試験の概要	関係先等
			播種	定植	調査・収穫		
1	夏秋トマトの養液栽培試験	R2～	4月下旬	6月中旬	8月上旬～	これまで試験してきた養液システムは、給液時間の変更が手動のため、急な天候の変化に対応できないことが課題であることから、日射センサによる自動灌水が可能で安価な環境制御装置を構築し、当該装置の管理方法について検討する。	旭川青果物生産出荷協議会 トマト部会
2	コマツナの栽植密度検討試験	R3～	①4月下旬 ②6月中旬 ③8月下旬	－	①5月下旬 ②7月中旬 ③9月下旬	本市におけるコマツナ栽培では、通年で株間4cmで栽培されている。株間を広げ栽植密度を低くすることで、特に高温期の課題である軟弱徒長や生育の不ぞろい等の改善が見込まれるため、技術としての有望性を収量性も含め検討する。＜供試品種：各作期2品種＞	旭川青果物生産出荷協議会 コマツナ部会
参考 1	コマツナの早春まき品種比較調査	新規	3月上旬	－	4月中下旬	今年度、市内の基幹品種の春まき分の種子が供給されなかったことから、今後に備え代替品種の選定を目的に品種比較試験を行う。＜供試品種：9品種＞	旭川青果物生産出荷協議会 コマツナ部会
3	ナンバン品の品種比較試験	新規	3月上旬	5月上旬	6月上旬～	自根栽培で用いられている品種である‘大長なんばんロングエース’の代替となり得る品種を選定する。＜供試品種：大長なんばんロングエース他5品種＞	旭川青果物生産出荷協議会 なんばん部会
4	白カブの作期別品種比較試験	新規	①3月下旬 ②6月中旬 ③8月下旬	－	① 5月下旬 ② 8月上旬 ③10月下旬	市内の基幹品種である‘玉里’は古くから栽培されている品種のため、他品種との特性を比較し、当地での栽培に適合する品種の検討を行う。＜供試品種：①③14品種、②12品種＞	旭川青果物生産出荷協議会 白かぶ部会
5	チンゲンサイの直播栽培試験	R2～	①3月上旬 ②6月上旬 ③8月上旬	－	①5月上旬 ②7月中旬 ③9月下旬	昨年度の試験において、慣行の移植栽培よりも栽植密度を高めた直播栽培の実施可能性が示唆されたことから、当地に適した栽培時期及び栽植密度について更なる検討を行う。＜供試品種：①冬大賞、②STT-115、③良雅＞	旭川青果物生産出荷協議会 チンゲン菜部会
参考 2	チンゲンサイの露地作型における直播栽培調査	新規	6月上旬	－	7月中旬	露地作型における直播栽培は、ハウス増設等を要せず作付面積を拡大することが可能であり、移植栽培よりも省力化が期待できることから、その実施可能性について調査する。＜供試品種：STT-115＞	旭川青果物生産出荷協議会 チンゲン菜部会
6	サツマイモの栽植密度検討試験	R3～	－	5月下旬	10月上旬	市内での栽培が広がりつつある青果用サツマイモについて、地域に適応し、作業性と収量性を両立する適切な栽植密度を検討する。＜供試品種：シルクスイート、ベにはるか＞	J Aあさひかわ及びJ A東旭川
7	シャインマスカットの栽培法試験	R3～	－	－ (R3. 5. 11定植)	－	J Aあさひかわが新規作物として導入を検討している‘シャインマスカット’について、寒冷地である当地での栽培適性を確認するため、昨年定植した樹において越冬の可否を確認するとともに、定植2年目の栽培管理について検証する。	J Aあさひかわ
8	雪の下ネギの栽培法検討試験	R2～	4月下旬	6月下旬	11月中旬～ 2月中旬	雪の下ネギの栽培法として、穴底植え栽培を推奨しているが、最大の課題が深さ30cmの穴開けである。高畝にすることで穴開けの作業性は向上するが、冬季の貯蔵性の低下が懸念されるため、比較試験を実施する。	冬季栽培に取り組む又は関心を示す生産者
9	冬季栽培における剣葉型ホウレンソウの品種特性調査	新規	①10月上旬 ②10月中旬	－	11月下旬～	市内直売所において通年で需要が高い欠刻剣葉型ホウレンソウについて、10月以降の無加温条件下で直播栽培可能な品種を検討する。＜供試品種：8～12品種程度＞	冬季栽培に取り組む又は関心を示す生産者

＜展示栽培＞

No.	課題名	年次	作型			試験の概要	関係先等
			播種	定植	収穫		
展示 1	パセリの栽培展示	新規	3月上旬	5月上旬	7月上旬～	旭川市が道内の主要産地であるパセリは、近年高温期での栽培が課題となっている。そのため、基幹品種‘グランド’と他品種の比較栽培を行うことにより、当地に適合する品種を検討する。＜供試品種：7品種＞	旭川青果物生産出荷協議会 パセリ部会
展示 2	サツマイモ苗の増殖実証展示	新規	4月上旬	－	5月下旬～ 6月中旬	市内で栽培されている品種である‘シルクスイート’は、今年度は切り苗が十分に確保できない状況であり、今後も同様の事態が予想されることから、種芋及びポット苗からの自家増殖について実証展示を行う。	J Aあさひかわ及びJ A東旭川

<展示栽培>

No.	課題名	年次	作型			試験の概要	関係先等
			播種	定植	収穫		
展示 3	冬季野菜栽培展示	H29 ～	9月上旬	9月下旬	11月中旬～	空気膜2重フィルムの耐用年数の確認及び見学用展示, チェーンボットを用いた新規作型の試作を行う。 ＜供試品目：小カブ, ミニハクサイ, ボーレコール＞	冬季栽培に取り 組む又は関 心を示す生産 者
展示 4	寒締めハウレンソ ウにおける10月定 植作型の栽培展示	H19 ～	9月下旬	10月上旬	11月下旬～	農業センターでは従前から、定植作型において、定植直後 から低温管理とする条件で9月中の定植を推奨してきた。今 年度は、圃場の使用時期を10月からとし、初期の温度管理 に保温管理も取り入れた場合の生育状況の展示を行う。	寒締めハウレ ンソウ生産者
展示 5	蘇葉の育苗実証展 示	新規	4月下旬	6月上旬 (展示終了)	－	JAあさひかわでは、新規転作作物として生薬として利用さ れるシソ「蘇葉（ソヨウ）」の導入を検討している。導入 に当たっては、当地に適した育苗方法の確立・普及が課題 であることから、一般的なビニールハウスでの育苗を想定 した実証展示を行う。	J Aあさひか わ